

The Gallery

ザ・ギャラリー

2007(平成19)年1月14日(日) 発行・相模原市議会をよくなる会(設立1999年)

12月定例会版

■検証・これでいいのか さがみはら市議会だより ■

誰も読まない? 20万部 「よく読む」のは6%以下



今年5・6月に実施された「市政に関する世論調査」の結果が10月に発表された。その調査によると、相模原市議会が発行している『さがみはら市議会だより』(以下「議会報」)の閲読率は驚くばかりだ。「よく読んでいる」と答えたのはたった5.9%(前回平成15年では6.2%)で、大半は読んでいないことが分かった。この「議会報」は年間5回発行されている。発行部数は毎回23万部で、経費は年間約1500万円。発行は議会の定例会の翌月で、市民への配布は新聞折込の方式を取っている。ちなみに編集は市議会事務局の議事調査課の職員が担当しており、他市の殆どの議会報が議員の編集委員会が作成しているのは大きな違いだ。

「さがみはら市議会だより」
あなたは読んだことありますか?

議員の顔が見えない紙面

この「議会報」と比較されるのが、市の公聴広報課が発行している『広報さがみはら』(以下「広報」)で、こちらは「よくよんでいる」のは約4倍の22.6%である。本会(相模原市議会をよくなる会)は、なぜ「議会報」がこれほど読まれないのか以前から分析、その原因は編集内容に原因があると結論付けていた。議会報の主な内容は議員の質問

(代表質問と一般質問)内容の掲載と議案の審査結果の報告だが、肝心の議員の名前が公表されず、また審査結果も会派や議員別になったのは最近、選挙で選んだ議員の発言や採決における行動がまったく見えないことにあるというのが結論だ。7年半前の本会の発足以来、議会当局に氏名掲載を訴え続けてきたが、いまだに実現されていない。議員の顔が見えない紙面では興味も関心も湧かないのは当然である。

The Gallery No. 31 目次

■ 検証・これでいいのか『市議会だより』	P1	□ 議会は別物、真の姿伝えていない	P2
■ 傍聴報告 12月定例会 本会議	P3-6	□ ネット中継傍聴記	P6
■ 傍聴報告 12月定例会 委員会	P7-9	□ 特別顧問職(元津久井・相模湖町町長)の報酬は?	P8
■ どうなる? 市立美術館建設	P10	□ 「異動の激しい幹部職員」に想う	P9
■ 武原、河本両議員が辞任	P10	□ もう?! 海外視察復活―身内に甘い官僚体質	P10
■ レポート: 公開シンポジウム つくろろ! 使おう! 「議員の“通信簿”」	P11	□ 傍聴記 愛川町議会	P11
■ 2006年 市議会 10大ニュース	P12	□ 議会に物言える政治家	P12

廃刊して『広報さがみはら』に併合を

発行しても毎回 20 万部がムダに配られ読まれていない「議会報」なら、即刻廃止して、いっそのこと比較的読まれている広報と合併させ、数ページを議会のニュースに割いてもらうことを提案したい。幸い半年前から「議会報」の発行日を広報に合わせ始めている。2 紙に別けて配る必要はない。この方式はすでに中核市の先進市・横須賀が実行している。相模原市議会の運営委員会では「議会報」の内容について何年も検討しているが、閲読率の低さを話題にしているのを聞いたことがない。情性で発行を続け、質問議員の氏名をいかに公表しないかを工夫してきたのが実態だ。今年 6 月議会から氏名を掲載する噂はあるものの、果たして実現するのか。仮にそうであっても、この 2 紙の合併はぜひとも実現させてもらいたい。

なってない調査の設問

面白いことに、調査は「読む理由」ではなく、「読まない理由」だけをきいている。例えば、「忙しくて読む暇が無い」「文字が多すぎて読む気にならない」「読まなくても支障がない」などの選択肢が並んでいる。これでは「議会報」について聞く意味がない。次回からの調査には以下のような設問を用いることを提案したい。「行政や議会に興味がない」「広報の情報だけで充分だから」「会派中心の議会運営だが、会派の実態が分からないから」「質問者の氏名が掲載されず、議員の顔や考えが見えない」「陳情の採否についての説明もないから」「議会から市民へのメッセージがない」「視察などの報告が市民に提供されていない」等々。End

議会は別物、真の姿伝えていない

「議会だより」には我々傍聴者が聴いていたものとはまるで印象の違う世界が広がっている。本当に面白い、興味深いと思ったことは「議会だより」には取り上げられないか、かなり違ったトーンで掲載されたりする。代わりに、中身の無い棒読み演説が脚色されて意義深い質問として記されていたりする。議員ではなく役所側が作っているのだから行政都合にならざるを得ない。つまらなさすぎて、とても全部に目を通すことはできない。

議員と議会事務局職員以外で(?)「よく読む」という一般市民 5.9%とはどういう人なのか? 誰(どの議員)が言っているのかが書いてなくても、「よく読む」と答えた理由は何なのか、大いに興味が湧く。(渡辺)

キャンブ座間内 市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を

市長等の退職手当 見直しへの考えは
見直しへの考えは
見直しへの考えは
見直しへの考えは

無所属クラブ議員 市長等の特別職について
市長等の特別職について
市長等の特別職について
市長等の特別職について

市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を
市道拡幅の推進を

市長等の退職手当
市長等の退職手当
市長等の退職手当
市長等の退職手当

無所属クラブ議員
無所属クラブ議員
無所属クラブ議員
無所属クラブ議員

会派名だけで、誰が質問しているのかわからない 『一般質問』

第155号 平成18年(2006年)11月1日(2)

代表質問

三位一体改革など
決算の評価は

代表質問を行った議員(会派)は、議員名(会派名)を記載し、質問事項を記述する。質問事項は、議会の運営、市民生活、教育、文化、スポーツ、環境、福祉、労働、経済、産業、観光、交通、防災、その他に関する事項とする。

議会日誌

8月17日	議会運営委員会
8月23日	本会議第1日
8月28日	本会議第2日
9月5日	環境経済委員会
9月6日	本会議第3日
9月7日	本会議第4日
9月7日	本会議第5日
9月17日	議会運営委員会
8月11日	本会議第6日
8月12日	本会議第7日
8月13日	総務委員会
8月14日	民生委員会
8月19日	環境経済委員会
8月20日	建設委員会
8月21日	文教委員会
8月26日	議会運営委員会
8月29日	本会議第8日
8月29日	議会運営委員会

出席状況

9月1日	出席	46人
9月2日	出席	46人
9月3日	出席	46人
9月4日	出席	46人
9月5日	出席	45人
9月6日	出席	45人
9月7日	出席	45人
9月8日	出席	45人

出席状況のみを記載。市民が知りたいのは全部で何人で、そのうち誰が(どの議員が)何の理由で欠席しているのかなのに。

傍聴報告・12月定例会

■ 本会議 ■ 感想と意見 (11月21日、12月4, 5, 6, 7, 8, 22日の7日間)

1. 12月定例会は11月21日から始まった。初日はいつものように提出議案116件の提案理由に終始、18人の市幹部が入れ替わり立ち代り議案の粗い拾い読みを続け、午後1時37分閉会した。この日、本会議場の晴れ舞台(壇上)に上がった面々を紹介しておこう。加山助役、小星総務部長、山中財務部長、渡邊保健福祉部長、桐山高齢者福祉担当部長、深沢保健所長、梶山市民部長、戸塚経済部長、内藤環境保全部長、井上環境事業部長、座間都市部長、溝呂木建築部長、榎田土木部長、馬場教育総務部長、渋谷生涯学習部長、青山消防長、石井選挙管理委員会事務局長、小林東西農業委員会事務局長の合計18名。彼らはいちいち議案番号とその件名をフルネームで言って説明し、最後に「よろしくご決定のほどよろしく願います。」と、決まり文句で終わる。議案番号、説明、「以上です」の一言のほうはずっとよい。懇懇無礼な議会のセレモニーに疲れてしまうのは傍聴者だけでない。肝心の議員が眠ってしまうのも仕方ないか。
2. 12月4日は記憶に残る日だ。長欠していた河本文吉(市政クラブ)、武原祐子(神奈川ネット)の2議員が辞任届けを出し、本会議の出席議員総員で承認した。今年3人目の辞任だった。
3. 同日、代表質問・個人質問が始まり、各会派を代表する議員が質問した。殆どが共通する課題・テーマだ。合併(城山残土問題)、基地(補給廠)、新組織(副市長、局長制)交通(バス・小田急多摩線延伸)、教育(いじめ)、総合計画など。
4. 細谷達議員(市)の第2問は、市長答弁を先に入手した上で用意したらしく質問文をすらすらと朗読していた。そうしたやり方では、その答弁も用意してあるはずで、議会の緊張感はあるはずがない。
5. 山田議員(公)の質問には、今井議長(市)に代わって山崎副議長(公)が議長席に座った。それにしてもベテランの山田議員が終始朗読で下を向いていたのは残念だ。
6. 松永議員(共)、城山町葉山島残土問題で、来年合併までに国、県、町で解決すべき、市の情報の不確かさに不満を表明、打ち合わせの議事録を公開せよと厳しく迫った。
7. 寺山議員(民)、組織改正の局長制は行政改革の逆行ではないかと質した。昭和51年から10年ほどの局長制は失敗したのでやめた経緯に絡めていたが、市側は効率性と分かりやすさを主張した。
8. 寺山議員(民)、カナダ・トレイル市訪問で、歓迎され感動したと報告。交流の意義を強調していたが、その程度の成果では議員による国際交流の意味はあまり大きいとはいえない。
9. 東條議員(無)、北地区保健福祉センターの設置について、近距離にある城山町の同種施設との重複の問題を質した。これは21世紀総合計画の大規模事業とはみなしていないと市は考えているようだ。
10. 国民健康保険で、不払いは全国で32万人に上るようだが、相模原市は今回2回目の値上げとなる。東條議員(無)、市の負担増の額を試算したかと質問したが、確たる数字は示せなかった。
11. 岩本議員(ネ)は副市長制と行政組織の改正について、なぜ今でなくてはダメかと問い、小川市長は「庁内分権と自己決定、自己責任」と力説、これまでにない元気を見せていた。
12. 友成議員(社)が行政組織条例の改正で、設置される局制の序列が、企画財政、総務、保健福祉、市民、など8局であることについて、なぜ総務が一番先でないのかと強く問いただしていたが、なぜそんなにこだわるのか? 現行組織でも企画が最初でしょ。

12月6日 一般質問

13. 菅原議員(公)の防犯のための青色回転灯装備車拡充についての質問に、市からの回答は宝くじ売り上げによる助成を期待しているという意外なものであった。また、生活習慣病対策が中高年者を対象と想定していたら、その予備軍として中学生に呼

びかけている早寝早起き、朝ごはん運動についての質疑応答が驚きであった。

14. 大神田議員(市)は介護予防について質問。現在 65 歳以上の高齢者人口は全国で 20%、当市は 15.7%、10 万 3 千人、これが平成 27 年(9 年後) 23%を占めることが明らかに。また、児童虐待の現状と対策についての質問に対し、今年は去年より 10%増、177 件の相談件数があり、これに専門員 11 名、補助員 7 名で対応を強化しているとの答えであった。
15. 大神田議員(市)の 1 問目読み上げ中、見回したところ、聞いている議員はおらず、せつせと何かを書き写している人が多かった。また珍しく市幹部席のほうでも、部長と局長が身を寄せておしゃべり。2 問目には地元・津久井の話となり、津久井の農地の 50%が耕作放棄地とのことで、それを市民農園にしてほしいと要望すると、議員席がニヤニヤ〜とどよめいていた。
- (11 時 25 分休憩後、今井議長から山崎副議長に交代)
16. 加藤議員(公)、相模原市には市外局番が 042 と 046 があり、合併すると更に 3 つとなるが、統一でき

ないかという質問。同じ市にいるのに、基本料金が違い、市外通話料金を払うのは確におかしい。これまでは総務省からのきまりで、変更には全住民の合意が必要ということで不可能と考えられたが、合併に関してはこのきまりが緩和されることで、市側から「具体的に考えていく」という答弁を得た。後は精神障害、小児と産科医療、喘息対策など医療関係を主とした質問だった。

17. 阿部議員(市)、「子育て支援策について」で、乳幼児教育に疑問があり、親子 2 代お世話になっている幼稚園の先生の「子供は今も昔も変わってないが、今は大人の都合になっている」という言葉を引用し、厳しい口調で苦言を呈した。市長は認定こども園制度と幼保一体化は同じ趣旨と考えると答弁。「電子自治体推進について」では、余り聞きなれない CIO (最高情報統括責任者の略称) 制度について質問。市長、助役に資料を手渡した。また、合併が一段落し、ホストコンピューターのリースの期限がそろそろ来るので、大型からより小型のものへダウンサイジングすべき、と提言。さすが得意分野だ。
18. 金子議員(社)「資源リサイクル 今秋から始まったペットボトル・プラスチック容器包装等の分別回収をめぐる」の質問で、他市の多くが入札委託方式なのに、相模原市は 5 億 2 千万円の補助金を使って、三者協調(自治会連合会・業者・市)での事業展開は現在ではそぐわない、早く委託制度にすべし、と言った。また、「津久井地域の文化財…」に関する質問の項では、藤野町に生息するキマダラルリツバメという絶滅が懸念されている蝶の写真を掲げて、注意を惹いた。
19. 金子議員(社)、恒例の基地問題では、米海軍のヘリコプターの訓練は横須賀基地にちゃんとしたヘリポートがあるのだから、そこですべき。キャンプ座間で騒音をまき散らさないよう要望すべきだ、と当然至極の主張をした。
- (休憩後の 15 時 10 分から今井議長再登場)
20. 菅野議員(共)は生活保護行政のあり方について、7 項目の質問をしたが、市行政の回答は憲法第 25 条にのっとって対応するという珍しく憲法を持ち

傍聴者から見る **会派の特徴** (議員定数 49 名)

会派名(略称) [人数]* 特徴・質問の中心的内容

- 市政クラブ(市) [25] 保守系の最大会派、土地利用、箱物・道路建設の推進、シティセールスなど、常に行政側とともにある
- 公明党(公) [8] 創価学会が支持母体。庶民的立場から質問し、税金からの支援を要望。常に市政クラブと同調
- 日本共産党(共) [5] 共産主義に基き、常に弱者(障がい者、貧者)の立場で質問し、行政施策を鋭く批判する
- 民主クラブ(民) [4] 民主党が基盤。会派としての一体感が薄い、質問は批判的で、多岐にわたる
- 無所属クラブ(無) [3] 無所属議員 3 人で結成。各々個性的、市長批判、戦争反対、ごみ問題。賛否は三者三様
- 社会民主党(社) [2] ベテラン 2 人、それぞれ基地問題、学校施設は質問からはずさない
- ネット(ネ) [2] 生活クラブ生協が支持母体。生活者の立場で質問、内容は行政に批判的なものの、採決では行政側に立つ *辞任した議員の数も含む

出したものだった。

21. 菅野議員(共)は生活保護について、その申込みの相談件数と実際の申請件数を質問した。答弁では(昨年度のか)相談件数2千何件あったが、申請は895件という。つまり、相談しているうちに、色々言われて申請をあきらめさせられるらしい。人権に配慮するならば、反対に、まず申請を受け付け、それから相談すべき、と言った。市長は「まず、拝聴してから」との答弁。「户籍住民課窓口業務の一部民間委託についての質問では、相模原市がこの業務を民間委託したことが新聞に載り、県や市(横浜、横須賀など)が見に来たり、問い合わせがかなりあったとか。個人情報(PCからの)出力は違法と総務省から言われているはずなのだから、見直すべきだと追求したが、市側はまともに答弁しない。菅野議員は「(そんなことは)聞いていない!」と怒り、同じ共産党の藤井議員も「竹中大臣の答弁からすれば、違反でしょ!」と叫び、そんな中、今井議長が遮るように、「6番、西村綾子議員」と呼んだ。
22. 西村議員(無)は基地問題について質問し、市の答えは米軍再編に絡んで、来年夏、新司令部設置の報道は日本政府も関知していない、自衛隊移駐については基地返還協議会とともに反対運動を進めるというもので、大きな関心を持つ市民にとっては具体性を欠いた物足りないものであった。
23. 西村議員(無)の1問目に対する答弁を読む市長、さっさと終わらせたいという感じの棒読み。「はじめ、自殺が増えている状況をどう考える」に対する教育長の答弁は「私からの緊急メッセージを伝えた」と。(効果があったか後で知りたい)

12月7日 一般質問

24. 藤井議員(共)、障がい者福祉の充実について、の質問で、自立支援法によりグループホームが月額制から日額制に変わり減収した。「グループホームは一泊いくらのドヤじゃない」という声があると。前日のニュースで柳沢厚生労働大臣が負担軽減へ措置を取る、と言ったからか市独自でも負担軽減を図るそうだ。厚労省の職員3人がグループホー

ムに泊まって体験したことを藤井議員は「そのことは評価したい。しかし、制度を変える前にやるべきだ」と言った。「野生鳥獣対策について」では、横浜市が無料で駆除するのに、相模原市はただ業者を紹介するのみ。なぜ、自分でやらなければならないのか?と質問。答えはよく分からなかった。最後の「国民健康保険・人間ドック助成事業について」で、助成額が40歳以上25000円→22000円に減額。しかし、城山町では35歳以上で25000円の助成というから、今後合併したらどうなるのか。また、募集定員に満たないという現状で、受診率を上げたいという気があるのか、と追求した。藤井議員が2問目をしっかり考えながらしている姿は立派。

25. 友成議員(社)、「市立美術館建設について」では、荒調子で、いつ何処で誰が誰と話し合っ、大川氏所蔵の絵画200点を相模原市に寄贈するという話になったのか、と質問。特に、“寄贈”だったのが“恒久的貸与”と文言が変わったが、この意味は何なのかと追求した。また、大川氏が美術品を手袋をせず素手で触ったことを「ありえない」と言った。(自分のものだからじゃないの?)

P10「どうなる?市立美術館建設」を参照下さい。

26. 沼倉議員(市)が、NIKKを真似てか、課外授業「ようこそ先輩」に相模原出身の著名人を招くための実態把握をと提言。教育委員会が作ったリストには学者、研究者が少ないと指摘していた。また西門パーキングの改善策や学校プールの問題では、相変わらず2問目の質問を構成できず、最後は「この問題は難しいので答えなくてもいいです」と言う始末。議員自身の見識を持ってもらいたい。
27. 関山議員(公)、いつものように体験談に終始、友好都市との交流で、自分が参加したトレイル市訪問では「感動した」ことを強調、交流は世界平和につながるなどと、子どもたちの訪問まで勧めていた。議員らしい報告をしてほしい。(溝渕議員(市)が離席した)
28. 関山議員(公)、2問目を読みなく関山節で読んで、「私の2問目を終わります」ときっぱり。(えっ、何が質問なの?と置いていたら)当人急

にひどく慌てた様子。結局、3問目に2問目で言うべきことを入れ込んでいた。

29. 岩本議員(ネ)、平和の取り組みについて市の姿勢を質し、市は北朝鮮の核実験に抗議したことが分かった。しかし市庁舎前の[核兵器廃絶平和宣言都市]のモニュメントは破損されたまま。市の真剣みの無さが明白。「さがみはら市民オンブズマン」の指摘で、あわててきれいなものに取り替えた。
30. 石井議員(市)は水資源、雨水対策、生活排水など、水にこだわった質問、58分の質疑を行ったが、第2問も滔々と読み続けた。質疑のセレモニーはやめてほしい。早く1問1答方式での真剣なやり取りが見たい。(長友議員(無)たまらず離席)

12月8日 一般質問

31. 長友議員(無)の「美術館建設について」は鋭い質問だった。市側の答弁があやふやで、やりとりを聴いていると、美術館の建設にはその中に展示・収蔵する作品と共に、何か裏取引があるように思われた。
32. 中村議員(市)、新エネルギー活用で提案したが、時期尚早との感が否めず、議場は関心を示してい

なかったようだ。また、市内では患者が500人程度と推定する脳脊髄液減少症問題は市側もまだ本格的な取り組みには至っていないことが分かった。

33. 大上議員(公)の飲酒運転防止条例は具体案でもあり、推進すべきだ。しかし、都市農業の育成に[夕焼け市]はどれほどの効果が期待できるか。もっとダイナミックな施策はないか。(長友克(民)、佐藤(市)両議員が離席)
34. 由比議員(市)、開口一番「取りの質問なのに見なれた傍聴者一人だけはさびしい。」と傍聴席に言及。傍聴席が閑散としているのは議会議員全員の努力不足ではないか。議会に目を向けさせてほしい。[いじめ]問題では、11月の「こども議会」に学校の先生の傍聴がまったく見られなかったのは残念と、正しい指摘があった。

12月22日(最終日)

35. 午前は常任委員会委員長報告と7人の議員による賛成あるいは反対討論。午後は各案件(計120件)に対する議員会派の採決が行われた。それぞれの会派議員による討論は会派の特徴と今回の市議会定例会の問題点を浮き彫りにした。即ち来年から

ネット中継傍聴記

私は会社員で平日の昼間は会社勤務のため、議会を傍聴することが大変困難です。そこで市議会HPのインターネット中継(録画)を見ることにしました。(見たのは平成18年9月定例会、9月5日(火)の委員長報告・討論・採決)

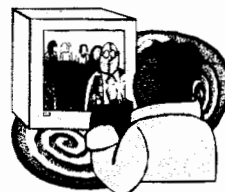
これは「議案第132号の仮称新南清掃工場建設工事契約議案」について、私も結構興味のある問題だったので…。ハッキリ言って「退屈」でした。政見放送のほうがまだマシです。まあ、議会の中継ですから原稿を読み上げる場面ばかりになるのは仕方がないですが、もう少し工夫できないのでしょうか。例えば、金額や数字あるいは、他と比較する事柄などを示す時に、表やグラフなどを使用して視覚的によくわかるようにするとか。国会の委員会では質問者がフリップを使っていたりしますが、市議会の委員会ではやってるのでしょうか。(委員会はネット中継していないので日中の傍聴ができない私にはわかりませんが…)

あと、採決の際は議場全体が映りますが、誰が起立をしていて、誰がしていないかがわかりにくい。他の場面はともかく、この場面はもう少し画質を良くしていただきたい。

しかし、採決の場面以外は発言者と議長のための画面しかないんですね。その時に他の議員の皆さんはどういった反応をしていたのか気になります。このあたりはネット中継(録画)の限界でしょうか。(でもカメラを複数配置して見る側が視点を切り替えられるようにする事ぐらいはできそうな気がします…)

それにしても、この時(採決時)に傍聴席も映りましたが、傍聴していたのは5名ほどで大変閑散としていました。議会の傍聴者って、いつもこれ位なのではないでしょうか?

山本光宏(相模大野)



三副市長制を全国で一つ当市が条例化する。国民健康保険料の値上げ、後期高齢者（75歳以上）医療費負担増のための広域連合議会規約の協議に賛否が分かれた。反対するかなと思うと賛成するのが長友克(民)・金子(社)両議員の会派。金子議員(社)は合併のメリット、デメリットについて説明不十分、財政支援も不明確と指摘しながら議会制民主主義の立場からよりよい合併ができるよう方針を変更したという。市民の立場にしっかり立って再考してもらいたい。

■委員会■ (感想と意見)

■総務委員会 (12月11日)

午前9時半から4時半まで。職員側、加山助役以下、ピーク時40名答弁要員。

- 川上委員長(市)の采配で進行するも行政側がまともな答弁できず、良く勉強してきた友成(社)、山岸(市)、山田(公)、藤井委員(共)等は不満を表明。総務部長がたまらず陳謝する始末。市側の勉強不足が目立った。
- 友成委員(社)の市の組織の変更でのやりとりは、最後市側が深謝することとなった。
- 藤井委員(共)、来年度からの増税のPRをどうするのかと質問、市は15万部のチラシの作成で1月20日から開始と答えていたが、果たして納得のいくものかどうか。
- 長友克委員(民)、管理職手当4200万円の増額の根拠を問い、市はチーム・グループ制の導入でリーダーが40名増えたと説明。総務部長が書面にて後日内容を提出すると、また陳謝した。
- 市が新宿駅で新相模原市のPRを実施することについて、もう少し時間をかけて慎重に検討すべきと主張、市は費用対効果を考えやってみないと計画実施を変えない考えを示した。
- 折笠委員(市)のPR内容の質問には、東口・西口でのVideo、ポスターを挙げ、時期は今年3月中旬から2週間と回答。
- 概して活発な意見、提言、苦言があったが、長友義委員(無)は元気がなく、須田委員(市)は勉強不足、今井委員(市)は議長だからなのか発言まったくなし。これはおかしな慣習だ。
- 折笠委員(市)から大野台団地の建築業者の契約不履行で、市は違約金5334万円を業者からもらったとの話が出たが、本当なら、契約の杜撰さが問われる。

■民生委員会 (12月12日)

職員43名(宮崎助役以下)、傍聴議員2名(小野沢(市)、東條(無)) 審議した議案35。

- 議案の殆どが合併による条例の一部改正であり、委員の質問はただ「知る」ためのもので、審議という定義からは遠いものばかりが目立った。
- 市側の「補足説明」は相変わらず「議案の説明は本会議でご説明したとおりで、特に補足することはございません。よろしくご決定くださいますようお願いいたします。」の言葉が繰り返される。「補足はありませんか」「特にありません」だけはいけないのか。
- 「災害弔慰金」の菅原委員(公)の実績についての答弁で、5世帯以上の被災者が出たときに適用、500万円から250万円の幅で支給するものと分かった。藤野、城山での実績はゼロとのこと。
- 沼倉委員(市)の質問に職員の答弁漏れがあり、松永委員長(共)がすかさず指摘、答弁を指示したのはよかった。職員はだらけている。
- 「看護師等修学資金貸し付け条例」の審議では、国立病院機構・相模原病院の看護学校の廃校を心配する宮下委員(市)に次いで、溝渕委員(市)が市の病院協会は看護学校を作れと提案した。それに対し、宮崎助役が市の医師会がいま財団法人化しているので、その方面の力を入れると答弁した。
- 子どもを扱う施設が多種あり、なかなか理解できない。審議は児童館、児童クラブ、子どもセンター、保育所などの廃置、統合、新設とめまぐるしい。この中で、新設中の大野台子どもセンターの年間維持費が2000万円と知ったが、市内の公的施設の維持費はいったいどのくらいの額になるのか知りたくなった。
- 国民健康保険条例の改正問題で、予防対策の重要性が語られたが、沼倉(市)・菅原(公)委員の健康づくり運動の必要性の質問に、市は人間ドックや

定期健診の実施を挙げている。溝淵委員(市)はアレルギー疾患の研究に市は国立病院に助成したらと提案したが、法的な制限で出来ないかと答弁。補助金が無理なら自治体としての知恵を出せと主張していた。

■環境経済委員会 (12月13日)

- 議案が12。全部が藤野町、城山町との合併に関わるものだったと思う。そのうち3つに東條委員(無)が賛成しなかったが、全ての議案は可決した。
- 菅野委員(共)から議案第194号 相模原市立藤野やまなみ温泉条例についてで、これまで町民が無料券(1年に1回、1人2枚)をもらっていたが、合併したら、指定管理者にし、無料券をなくすということだが、それはよくない。逆に旧相模原市民にも配ったら? と質問。経済部長の答弁、指定管理者がサービス(無料券の)をする可能性はあるが、市がする考えはない。
- 金子委員(社)、「どんな所が指定管理者になるのか? 公募で1社しかなかったというが大丈夫か? 事業内容などが不明瞭だが、丸投げなのか? もっとデータがほしい」と要望。答弁で“牧野地域振興会”という団体とのこと。
- 関連で、大上委員(公)から「津久井の“いやしの湯”にクーポン付きのスタンプラリーをしたらどうか」と提案、観光課長は「考える」と言った。(まさに公明党的発想)
- 議案第195号「相模原市立藤野農村環境改善センター条例について」で、金子委員(社)から「せっかくある施設が中途半端、公民館的に使用されている。」と。東條委員(無)も「なぜ、センターを公

民館的に使うのか」と追求。つまり、この施設は国の補助金が出ている農村整備モデル事業のために、使用目的が農村環境改善でなければならないが、実際は公民館のように使っているらしい。

- 石井委員(市)は農村環境改善センターについて、「やまなみ温泉と連携させるといいと思うが、交通アクセスが悪い。またネーミングも変えたほうがよい。途中の道路に案内板も必要」と提案。市側は「補助金を貰っているので施設目的は変えられないが、愛称を付けるなどしたい。案内板も考える」と答弁。
- 菅野委員(共)は「このセンターに見合った事業を市が展開すべきだ」と提言。寺山委員(民)からも「人口比から言ったら、とんでもない(立派、贅沢な)施設だ。しっかりと利用すべき」と。さらに佐藤委員(市)からも、「農林省の縛りの期間は?」市側「コンクリート造りは65年なので、平成72年まで」。しかし、65年は50年に短縮されたと判明。佐藤委員(市)「1万(藤野の人口)と農林省の契約だったわけで、今度66万が加わるのだから、契約を変更すべきだ」。市側「県を通じて国に聞いてもらったが『難しい』という回答だった」と答弁。
- 議案第251号の平成18年度の一般会計補正予算では、相模原市が来年新宿駅で市の宣伝をする予算が組まれていることに、大上委員(公)が「新宿でどんなことをするのか?」と質問。答弁では「東口ではアルタの大画面でCMを流す、西口ではビラやボードを使って、市を挙げてPR活動をする」と。合併記念事業に3650万円、その内、新市誕生PRキャンペーン事業2500万円を新宿で使うのか?
- 菅野委員(共)「外に向かったのPRもいいが、旧市民と参入市民との一体感はどうするのか?」市側「年8回バスで旧市民に津久井地域を案内している」その費用がバス一台7万円×8台=56万円と聞き出し、「それで一体感が保てますか? (場内に笑い) もっと市民が喜べるものにするべきだ。」と苦言。金子委員(社)は「新宿でやることを否定はしないが、藤野や城山にいる人をどうするのか? 県にも相模原市のパンフレットがない。県内にPR

地域振興特別顧問職の報酬は?

という質問があったので、お答えします。

週2回(溝口氏 月・木、天野氏 火・木)の勤務で報酬は月額200,300円です。

前号30号で、昨年の合併で町長を失職した天野望元津久井町長と溝口正夫元相模湖町長が、地域振興特別顧問となり、どのような業務を行って来たかの記事「地域振興特別顧問を考える」を掲載したところ、肝心の報酬が書いてないと指摘されましたので、お知らせします。費用対効果なるや、いかに?

すべきだし、市の中の観光も必要」と発言した。

■建設委員会（12月14日）

- 審議議案 23 件、総員可決 22 件、質疑なしが 8 件、大部分が城山、藤野両町との合併に伴う経過措置に関する議案であった。比較的審議が長かった議案は両町の住宅問題で岸浪(市)、久保田義(市)、田中(共) 3 議員から質問があり、両町あわせて 70 戸の住宅の中で 38 戸が老朽化しており修理にしてもリフォームにしても管理を厳正にすることが要望された。他に水路管理の件で城山町の水路は 20 ヘクタールの埋立地の中にありこの復旧には国県など 4 者協議が必要との答弁だった。合併賛同の議員各派は合併によるメリット、デメリットを細かく調査して是非公表してもらいたい。

■文教委員会（12月15日）

- 来年 3 月の城山町、藤野町との合併を前にした、この 12 月議会では文教委員会の 11 議案中第 225 号を除いた全てが合併に伴う条例の一部改正だった。合併に先立って委員会として両町を視察、全委員がその視察の感想をもとに質問を行った。
- 学校給食、スクールバス、監視カメラ、公民館など、地域によって大きな違いのあることを誰もが強調していた。
- 岩本委員(ネ)、中央公民館改修に際しては住民にとって不便なことがないように！と念押し。小学校の余裕教室の活用についても質問した。
- 大沢委員(民)、「藤野町の 4 つの公民館を視察して、

本市の公民館とは異なると実感した。職員が少ないが公民館の充実こそ図られるべき」と発言。

- 市側は合併しても一定の方向に直ぐにではなく引続き現行のままを維持しつつ話し合いながら、その地域に見合うよう対応していくと答えた。旧相模原市に何でも合わせるのではなく、良いものは極力生かし、市民サービスが後退することのないよう努めてほしいものだ。
- 西村委員(無)は最初の議案の討論に際し、合併に反対してきたので、関連議案については反対を表明する、と発言した。
- 議案第 225 号「相模原市民ギャラリー条例等の一部改正」で、西村(無)、岩本委員(ネ)が質問した。市民ギャラリー、青少年学習センター、青年海外派遣基金の管轄を教育委員会から市長部局に移すというが、わざわざ移す理由は何かとの問いに、「全庁的に組織改正して管理を一元化し市民にわかりやすくするためで、内容が変わるわけではない」との答弁をくり返したが、何度聞いてもよく分からなかった。両委員も納得せず、採決では共に反対した。
- 西村委員(無)は最後に、青年の海外派遣など、本来教育委員会が主導権を持つべきで「改正」の先の方向性が見えにくいと反対討論を行った。教育委員会不要論も取沙汰される昨今、理由の不明確な市長部局への移管が将来的に何をもたらすのか消化不良気味の傍聴だった。End

「異動の激しい幹部職員」に想う

前号(30号)で市の幹部職員の異動についての分析が載ったが、何とも腑に落ちない。関連部署内での異動ならともかく、全くの畑違いの場合、短期間で責任をまっとうできるほどに精通し、議会答弁も対応可能なほどに習熟できるのだろうか。

そこで、再度考えてみたい。まず、「役職」で見ると、総務部、教育総務部、保健福祉部、環境保全部、土木部、総務担当課、以上の 6 部署ではこの 3 年間、1 年毎に「長」が交代している。

次に「人」で見ると、以下の 3 氏は毎年役職が変わっている。内藤春男氏(18年度、環境保全部長、17年度、土木部長、16年度、市民部長)、馬場正行氏(18年度、教育総務部長、17年度、総務部長、16年度、保健福祉部長)、渡辺亮氏(18年度、保健福祉部長、17年度、教育総務部長、16年度、生涯学習部長)

長期に亘って一つの役職に留まるのが問題なのは確かだが、かと言って 1 年で変わるのもっとおかし。変わる理由は何か？ 後ろの席からだんだん前の席に移って来る人は出世していることを意味するのか？ 部長といえば重職なのに、毎年変わるのには、責任逃れのためか？ 不信に思い始めたら切りがない。

本会議や各委員会での幹部職員の答弁には、議員の質問に対してきちんと答えなかったり、答えになっていないこともある。おかしいと思って見ている市民がいることを、真摯に受けとめてほしいものだ。

(篠田)

レポート：公開シンポジウム「つくろう！使おう！『議員の“通信簿”』」

2006年11月25日(土) 豊島区民センターで、「開かれた議会をめざす会」主催による表題のシンポジウムが開かれた。当会の赤倉代表がパネリストの一人として討論した。

会は2部構成で、前半は愛知学院大学助教授の森正氏による講演、後半は4人のパネリストによる討論(司会進行役は森氏)だった。

講演、「議員評価—そのあり方と使い方—」

森氏が語ったのは、地方自治体は首長も議会も直接選挙で選出される二元代表制をとっているが、改革派の首長が出て来て、市民と一緒に行政運営を行うようになると、民意から離れ政策論争なき選挙競争を繰り返してきた地方議会は存在意義がなくなる。故に、一元制になる可能性を示唆していた。これは議会にとっては恐ろしい話なのだが、考えてみれば今だって、条例は殆ど行政側がつくり、議会がそれを承認するばかり。地方議会は必要ない(=議員は要らない)と言われているようで、戸惑いを覚えたが、今より良くなるには?の質問には、議員発議の条例を打ち出していくこと、質問通告制度の廃止、議場の変更などを上げていた。

パネルディスカッション

4人のパネリストはいずれも通信簿を作ったことのある人で、2人の議員(市会議員と県会議員)と2人の市民(うち1人が赤倉代表)。それぞれ事前に渡された質問に答えながらの自己紹介と、どんな通信簿を作ってきたかを説明した。赤倉代表が「議員が仲間の評価をするなんて非難されるでしょう?」と2人の議員に質問。2人とも質問回数で通信簿を作り、当然自分の評価は高かった。自分にとって都合よく評価していることを認めつつも、自分が一番活動しているので良いと思っているという感じだ。

その他、議員の報酬について、議会は行政の監視機能かそれとも政策立案機能のどちらが重要か、議会監視の活動で議会が良くなっているのか、などの質問がパネリストに投げかけられ、議論を交わした。

総じて、通信簿づくりに関しては、当会が一步先

んでいる感があった。参加者からも「私の所でも通信簿を作りますので、教えて下さい」と請われた。

これを機に今春の統一地方選挙前にはいくつかの市や町で質の高い『議員の通信簿』が作成され、発表されることを心から期待したい。(渡辺) End



左からコーディネーターの森 助教授、吉川ひろし氏(千葉県議会議員)、牧野順一氏(多摩ウォッチングの会代表)、猪股和雄氏(久喜市議会議員)、赤倉昭男氏(相模原市議会をよくなる会代表)

写真提供: 開かれた議会をめざす会

傍聴記・愛川町議会

時間の限り一問一答

12月6日(水)朝9時から、愛川町(人口42000)の本会議を傍聴した。旧相模原地域の約3分の1という面積なので、18人の町会議員はすぐ集合できるから、相模原より30分早くスタートできると1議員の冗談。庁舎全体が8時半始まりなら、相模原でも9時に“始業”してもいいのじゃないかと思う。

まず驚いたのは、傍聴受付が3人の女子中学生。職場体験だという。町も乙なことをやる。住所・氏名を記載、ティッシュ・透明ゴミ袋・選挙啓蒙パンフ類が入った「お土産」をもらって着席。50の傍聴席には23人の町民がもう座っていた。山田登美夫町長は答弁の冒頭「傍聴の皆さん、ご苦労さま」と呼びかけ、町長と町民の距離がぐっと近づいた。相模原市長にはない発想だな、と感心した。

今定例会では10議員が一般質問、この日は6人だった。各議員

(次ページに続く)

議会に物言える政治家

「政務調査費」問題が社会の注目を浴びる中、松沢成文神奈川県知事が12月13日の定例記者会見で、県議に支給される政務調査費の収支報告書に「領収書」添付を義務付けることを検討するよう要請した。

これは簡単に言えることではない。この政務調査費は県会では一人月53万円も出されているが、歴史的には知事側が議会とスムーズな関係を維持するために創られた補助金の一種と見られてきたからだ。議会からの抵抗はさぞ大きいだろう。

相模原でも、小川市長が議会に対して注文をつけたり、疑義をとなえることはなく、むしろタブーとされている。「議会に口を出さない」が民主主義の原則だと言いたげだ。然るに大和市の土屋候保市長はずっとものを言い続けているように見える。過日、行政改革の全国ランキングで常連上位の大和市が13位に急落した。このとき、「議会も調査の対象になりうるので、市長部局とともに努力して改革をすすめていかなければならない」と述べた。

土屋市長はまた議会の「本会議」のあり方について、「市側に対する質問も、他の議員を説得する討論も、各議員が自分の考えや思想・哲学を演説という手法で主張すべき場所で、1問1答を繰り返して議論を深めるのは常任委員会や特別委員会でこそ行われるべきだ」と述べている。その結果質問者の長い演説は姿を消したという。

松沢知事も土屋市長も、ともに県政や市政に自信を持ちはじめ議会にも物申し、ともによい政治を目指そうとの姿勢に見える。われわれは議会と当局が車の両輪といながら、そのバランスが取れていないことに危惧を抱いているだけに、議会にものを言う政治家を評価したい。(赤倉)

(前ページから) 傍聴記・愛川町議会

は持ち時間の1時間をフルに生かして一問一答に臨む。議員はたくさん質問しようとして簡潔な質問を心がけ、長々と自分の演説をしないのはいい感じだ。質問は単刀直入がよい。山田町長は丁寧に分かりやすい答弁に終始していたが、時間稼ぎの様子は無かった。注目する議員が一人いた。その議員は第1問目をメモをまったく見ないで7分間の質問をし、後もその調子で、1時間を有効に行政チェックしていた。こんな議員が相模原には何人いるかな。

議場で面白かったのは、各議員の座席ごとに分厚い「例規集」(15センチはある)がデンとおいてあったこと。また、質問者が交代するたびに10分間の休憩が必ずあるのも余裕だ。ただし、相模原のように度々議長が副議長に議長席を譲り自分は控え室で休憩という「慣習」はないようだ。(赤倉)

2006 市議会 10 大ニュース

- ㊦ 議員3人辞職
- ㊦ 市長、体調不良で助役が代続
- ㊦ 政務調査費 19年度からの領収書義務化
- ㊦ 「市議会だより」で会派別審査結果賛否公表
- ㊦ 代表質問制導入
- ㊦ 無所属クラブ誕生
- ㊦ 合併で2町から3議員誕生
- ㊦ 合併により地域振興特別顧問の誕生
- ㊦ 議長・市長の交際費公開
- ㊦ 市議の海外視察 320万円の予算内定

(順不同)

編集後記： 見た目も大事と紙面を刷新すべく編集を担当させて頂きましたが、読者の皆様如何ですか？今号も話題満載、市民の知る権利に込めている。次回はいよいよ臨時号『議員の通信簿』、いやでも気合が入ってくる。(渡辺)

□入会申込書□

<入会金不要>

私は会の趣旨に賛同し入会します。(A、Bどちらかに○をつけてください。)

氏名 _____ A. 会員(傍聴など活動する)として

住所 _____ B. 賛助会員(購読、支援する)として

電話・FAX _____ ○年会費(会員2000円、賛助会員1口1000円から)

★郵便振込口座番号：00280-6-48430 相模原市議会をよくする会
★申込み先：相模原市議会をよくする会・事務局(代表/赤倉昭男)
〒228-0814 相模原市南台5-13-8 電話・FAX 042-749-9140

<http://yokusurukai-gallery.hp.infoseek.co.jp>